

調査概要

1. 調査対象

宮古市、釜石市、気仙沼市、石巻市及びいわき市の5市のうち、沿岸を担当した以下の分団に所属する団員を調査対象とした。
※あくまでも対象が100人程度になるように各市に依頼したものであり、その市の沿岸を担当したすべての団員に調査したものではない。

県名	市町村名	配付数	回収数	回収率	分団名
岩手県	宮古市	105	76	72.4%	第6分団、第7分団、第25分団、第29分団、第30分団
	釜石市	150	101	67.3%	第1分団、第3分団、第8分団
宮城県	気仙沼市	97	78	80.4%	第1分団、第2分団
	石巻市	120	103	85.8%	第2分団、第7分団、第11分団
福島県	いわき市	120	113	94.2%	第2支団第1分団
合計		592	471	79.6%	

2. 調査期間

平成23年10月3日(月)～11月11日(金)

3. 調査項目

- | | | |
|--|--|---|
| (1) 団員の属性
年齢構成、職業、経験年数、階級 | (3) 情報把握
ア 地震の大きさ(震度)の把握状況
イ 大津波警報発令情報の把握状況
ウ 津波到達予想時刻の把握状況
エ 津波の高さ情報の把握状況 | オ 津波災害対策として必要だと感じたこと
カ 防災状況の把握状況 |
| (2) 東日本大震災時の対応
ア 地震直後の参集状況
イ 消防団の地震直後の活動
ウ 水門閉鎖活動
エ 避難誘導活動
オ 災害時要援護者への支援・把握状況
カ 初動時における活動人員
キ 団員の退避行動 | (4) 安全管理
ア 地震発生1週間の消防団活動
イ 活動中の危険の有無
ウ 今回の震災対応で特に有効であった資機材
エ 配備の必要性を感じた資機材 | (5) 大震災を想定した日頃の訓練、研修等
ア 津波防災関係の教育・訓練(その1、その2)
イ 惨事ストレス
ウ 団員の処遇と今後の活動
エ 消防団に入団したきっかけ |

4. 調査手法

質問票を用いた無記名回答によるアンケート調査

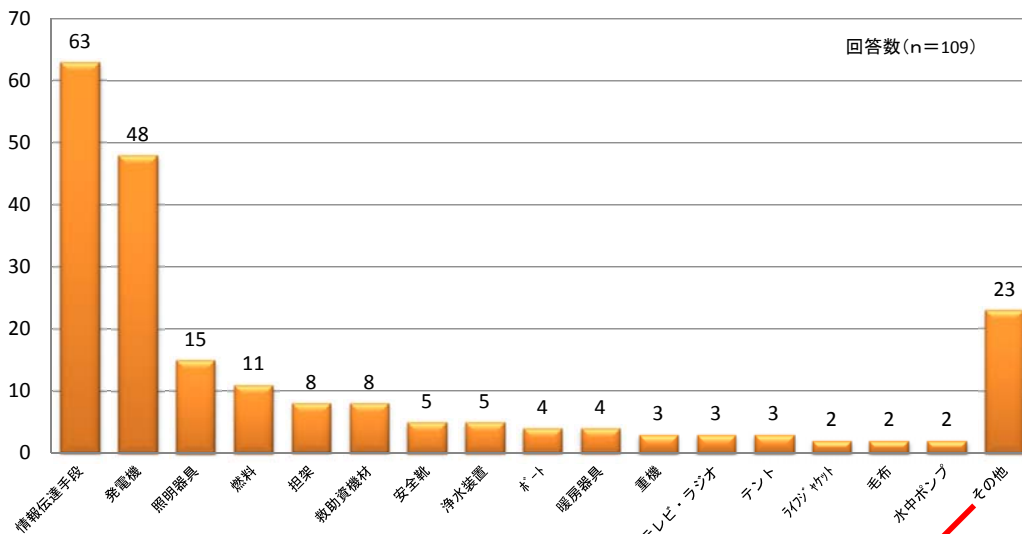
配備の必要性を感じた資機材

■ 情報伝達手段と発電機の配備を求める回答が多数

団員間の連絡がとれなかったとの反省等から情報伝達手段(無線、トランシーバー等)との回答が多かった。また、被災地では停電が長く続いたこと等から発電機との回答が多かった。

Q 今回の活動中に配備されていればよかったと強く感じた資機材があれば記載してください。(自由記載)

※ 自由記載の回答をカテゴリ毎に分類して集計



情報伝達手段：無線、トランシーバー等
照明器具：投光器、ヘッドライト等
救助資機材：エンジンカッター、チェーンソー等

(その他)
ゴーグル、手袋、乾電池、車椅子、自動車
高圧洗浄機、カラコーン、リアカー
ソーラー充電器、ブルーシート、仮設トイレ
大きな回転灯、風呂、バイク など